

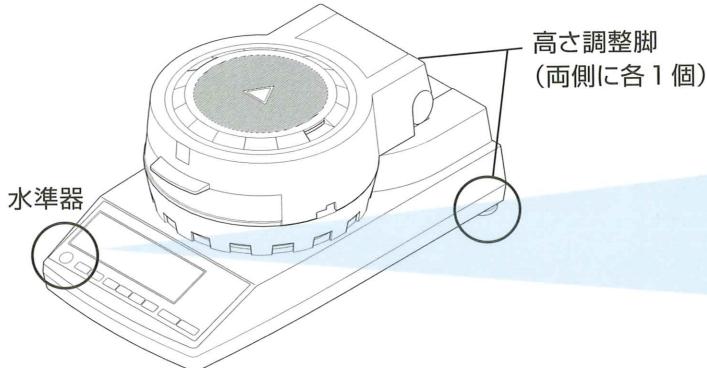
赤外線水分計 FD-720 かんたん操作ガイド

このガイドでは、赤外線水分計 FD-720 での水分測定をすぐに行えるよう、主な操作を簡易的にご説明いたします。

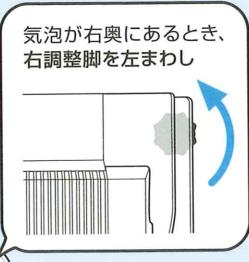
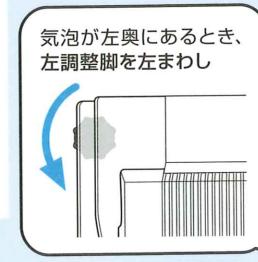
操作の前に、取扱説明書の扉ページ「赤外線水分計 安全上の注意」および、P.6「安全に測定するために」をお読みください。

1 本体を設置します。

振動のない平らな場所におき、水準を合わせます。



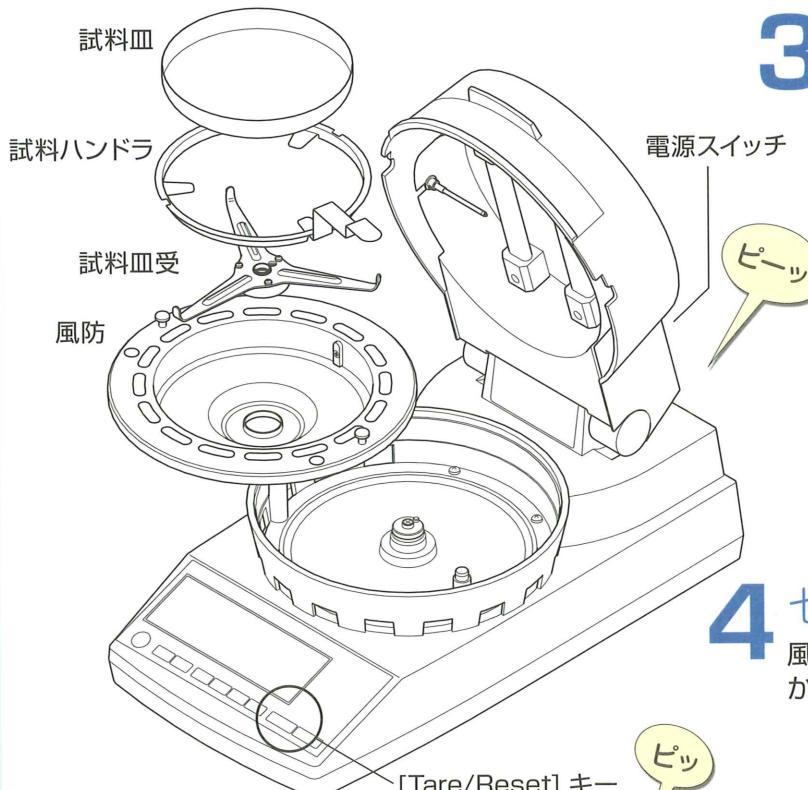
水準合わせは、高さ調整脚（左右に各1個）を用います。水準器内の気泡を中央へ動かしていきます。調整脚を左に回すと、回した調整脚側から水準器の気泡が遠ざかります。右に回すと、気泡が近寄ります。



2 付属品をセットします。

ヒーターカバーを開け、測定部に風防、試料皿受、試料ハンドラ、試料皿の順にセットします。
電源コードも接続します。

* 風防、試料皿受、試料ハンドラは、取付方向が決まっています（取扱説明書 P.15 参照）。
各部品の凹凸を合わせて、確実にセットしてください。



[Tare/Reset] キー
ピッ

3 電源を入れます。

電源スイッチは器械背面にあります。

電源を入れると「ピッ」というブザー音とともに画面が全表示し、自動的に内部チェックが始まります。チェックが完了すると「ピッ」という音とともに、質量表示画面になります。



* 開梱後初回の電源投入時などには、画面の全表示後、横ライン（「————」）が現れます。[Enter] キーを押してください。内部チェックに進みます。

4 ゼロ点調整を行います。

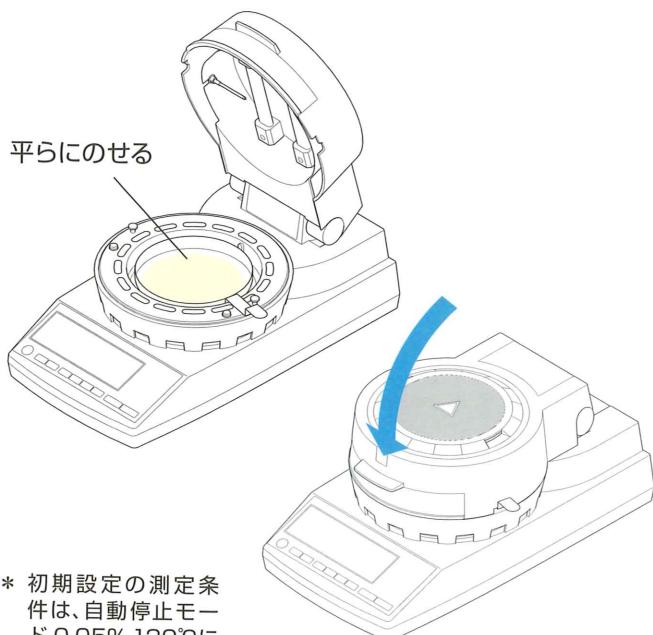
風などの影響を避けるため、ヒーターカバーを閉じてから、[Tare/Reset] キーを押します。

「ピッ」という音とともに、表示部に横ライン「————」が現れ調整が始まります。数秒後、再び「ピッ」という音とともに、「0.000g」と表示され、調整が完了します。

5 裏面へ続く

5 試料をのせます。

試料皿に試料ができるだけ平らにのせ(取扱説明書 P.17 参照)、ヒーターカバーを閉じます。



- * 初期設定の測定条件は、自動停止モード 0.05% 120°C になっています。試料によっては設定を変更する必要があります。詳細は取扱説明書 P.23 を参照してください。

〈試料質量表示例〉



6 測定を行います。

試料の質量と安定マークが表示されたら、[Start/Stop] キーを押します。

安定マーク



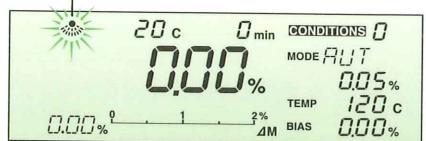
Start/Stop



測定が始まると、ヒーターマークが点滅します。

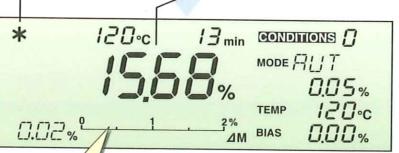
- * 測定中は、器械内部が大変高温になります。取扱説明書 P.6、7、20、21 を参照の上、安全な測定を心がけてください。

ヒーターマーク



測定終了マーク

測定結果
(水分値)



ピッピッピッ…

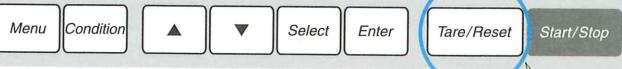
測定が終了すると測定結果と測定終了マークが表示され、「ピッピッピッ…」と 10 秒間ブザーがなり続けます。

7 次の測定の準備をします。

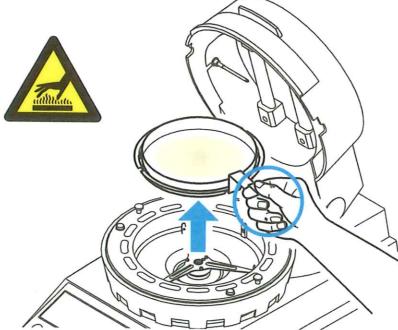
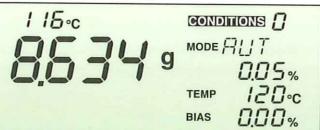
試料の廃棄、器械の清掃、次の測定へ。



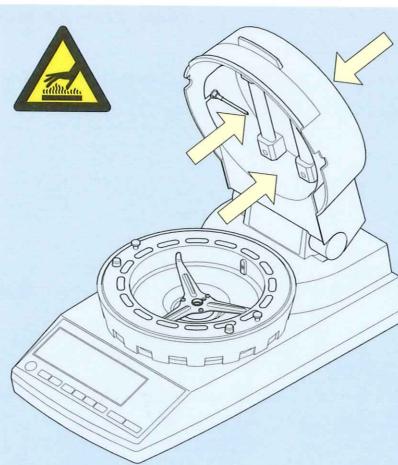
ブザーがなり終わりましたら、[Tare/Reset] キーを押し、質量表示画面に戻ります。



〈乾燥後の試料質量表示例〉



乾燥後の試料を廃棄します。このときヒーターや試料皿が高温になっておりますので、かならずハンドラの取っ手を持つようにしてください(取扱説明書 P.6 参照)。



測定後、試料によつては器具が汚れ、測定値に誤差が生じる場合があります。ヒーターかバー上面、ヒーターベース、温度センサ(左図矢印)を中心に清掃してください(取扱説明書 P.18、P.65 参照)。このとき、ヒーター周辺の高温に注意してください。



再度測定する場合は、ヒーターかバーを 1~2 分程度開放し、器具を冷ましてから行なってください。

またそのとき、試料皿は予備の冷めたもの(取扱説明書 P.17 参照)を使用し、**4** のゼロ点調整から再び測定を行ってください。

測定がすべて終了しましたら、電源を切り、電源コードを抜いてください。